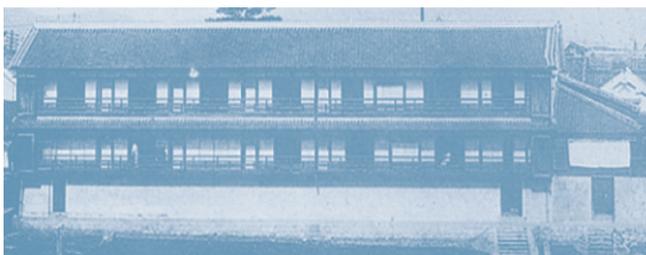


Hotel FLEX History

ホテルフレックスの歴史

ホテルフレックスの前身「吉川旅館」は、毛利元就の有名な逸話「三本の矢」で知られる戦国武将、吉川元春の名にちなんで命名されました。創業者の先祖でもある吉川元春の、勇猛果敢にして謹厳実直、人間尊重とホスピタリティの精神は、創業以来130余年にわたって脈々と受け継がれています。

明治5年、吉川元春の子孫によって創業された吉川旅館は、明治・大正時代を通じ県下最大の旅館としてその格式と貫禄を誇っていました。広島を訪れる貴紳・高官・富商はすべからく吉川旅館に泊まるほどの趨勢を極めましたが、戦争のため一時は閉店を余儀なくされました。戦後は「きっかわ観光ホテル」として復活し、1994年のアジア大会を契機に現在のデザイナーズホテルへと、歴史ある旅館から大きな変貌を遂げました。



明治5年頃の吉川旅館



中庭之景



客室



客室之廊下



貴賓室控間



吉川 元春 Kikkawa Motoharu

毛利元就の「三本の矢」の一本、吉川元春は享禄3(1530)年、元就の次男として郡山城内に生まれました。12歳の時に、尼子詮久(のち晴久)の郡山城攻めに応戦して、宮崎長尾の戦いに華々しい初陣を遂げます。17歳の時、吉川家の養子に入り、以後吉川元春を名のります。厳島合戦をはじめ、あらゆる戦闘に出動して活躍しました。

容色にとらわれず女性の真の価値を見抜いていた吉川元春

熊谷信直は武運の誉れ高い人物でした。が、その娘は評判の醜女。ところが、吉川家を相続した元春は、その娘を妻にしたいと言います。重臣が驚いてその真意をたかすと、元春はにっこり笑って答えました。「自分は容色で妻を選ぶような男ではない。古今東西、美女を妻に迎えたばかりに家を乱し、ついに亡国に至らしめた例は少なくない。醜女の評判の高い娘の夫となれば、その父親の自分に対する信頼は強固なものとなり、この上ない提携関係ができる。」と。これには重臣たちも感服。こうして熊谷の娘は元春の妻になり、信直は以前に増して毛利と吉川への忠勤に励むようになりました。元春の愛妻家ぶりは戦国武将の中でも群を抜いています。

吉川元春の妻選びは、戦国武将の中にあってはきわめて独創的で、近代の「人間尊重の精神」の先駆けすら感じさせます。ホテルフレックスも女性スタッフが適材適所、さらに一歩進んで、多くの女性スタッフでホテル運営をする、という女性の長所を完全に活かした方式を他のホテルに先駆けて採用しました。女性ならではの細やかな心配りと行き届いたサービスが、当ホテルご利用のお客様には、格別の安心と満足を感じていただけるのではないかと思います。

猛吹雪の中で凍死寸前の商人を救った吉川元春

元春は武将としての優れた資質を父の元就から受け継いでいました。勇猛果敢な働きをする一方で、読書家であり、長期にわたる富田城の包囲戦では、陣中で「太平記」40巻を流麗な筆で写し終えたりもしました。謹厳実直な性格で、自分の子ども達に対する躾も厳しく、着衣、飲食、礼儀作法などを詳しく訓戒した書面も残っています。元春にとって最後の戦場となった九州では、撤退の途中、猛吹雪の中で凍死寸前の商人を発見して救ってやるという仁愛に厚い武将の一面を見せています。

猛吹雪の中で凍死寸前の商人を救った吉川元春の行為は、今で言うボランティア精神、ホスピタリティの精神でした。その精神は、おもてなしの心として、明治5年に吉川元春の子孫が創業した「吉川旅館」から戦後の「きつかわ観光ホテル」を経て、現在の「ホテルフレックス」に至るまで、100有余年にわたって脈々と受け継がれているのです。

毛利一族の意地を見せた馬ノ山の“背水の陣”

ついに毛利氏は中国に侵入してきた秀吉軍との開戦に踏み切りました。天正9(1581)年10月、東に進軍した吉川元春が馬ノ山に着陣したとき、鳥取城を陥落させて勢いに乗る秀吉軍は、西に進んで高山に陣を敷きました。日本海に北面し、後ろは橋津川、雑草が茂るばかりの馬ノ山の元春の陣営を見下ろす好立地でした。山上から秀吉の大軍が打ち下ろせばひとたまりもありません。しかし、元春は少しもあわてず、橋津川の橋板を撤去して退路を断ち、背水の陣を敷きました。「寒中に咲く梅の花」に例えられた元春は大胆にして細心。夜は高敷で眠っても、陣の前面に堀をつくり、土塁を築き、柵を結びめぐらせて、一分の隙も無く防備を整えました。秀吉は元春軍のこの必死の構えを見て、ついに戦いを避けて姫路へ帰還。やがて元春も悠々と安芸に引き上げました。

平成初年、広島はアジア大会の開催を前に大ホテルの建設ラッシュに湧きかえっていました。ホテル戦国時代の到来でした。このままでは中小のホテルは存亡の危機に立たされる。その時、当時のきつかわ観光ホテルは少しもあわてず、京橋川の流れを背に「背水の陣」、全く新しいタイプのビジネスホテルをリフレッシュオープンさせました。ビジネスマンだけでなく、観光客、外国人、女性や老人などの地元市民まで安心して活用できる空間をしっかりと整えたのです。バラエティ豊かな客室、レストラン、宴会場などの充実した構えを備え、しかも河畔の立地を心憎いまでに活かした設計でした。華やかな装飾を排し、シンプルな美意識を活かした空間。何やら、吉川元春の馬ノ山の陣を彷彿とさせる「ホテルフレックス」のモダンな外観ではないでしょうか？